

# 2025年3月期 決算説明会

2025年5月19日

株式会社ペルセウスプロテオミクス

(証券コード：4882)



- 01 当社について
- 02 2025年3月期の計画と実績
- 03 トピックス
- 04 2025年3月期決算概況
- 05 当社の目指す姿と取り組み

# 01 当社について

## 最先端の抗体技術で世界の医療に貢献する会社です

**社名** 株式会社ペルセウスプロテオミクス（略称：PPMX）

**設立** 2001年2月

- 事業内容**
- 抗体医薬品の開発
  - 抗体研究支援
  - 抗体・試薬販売

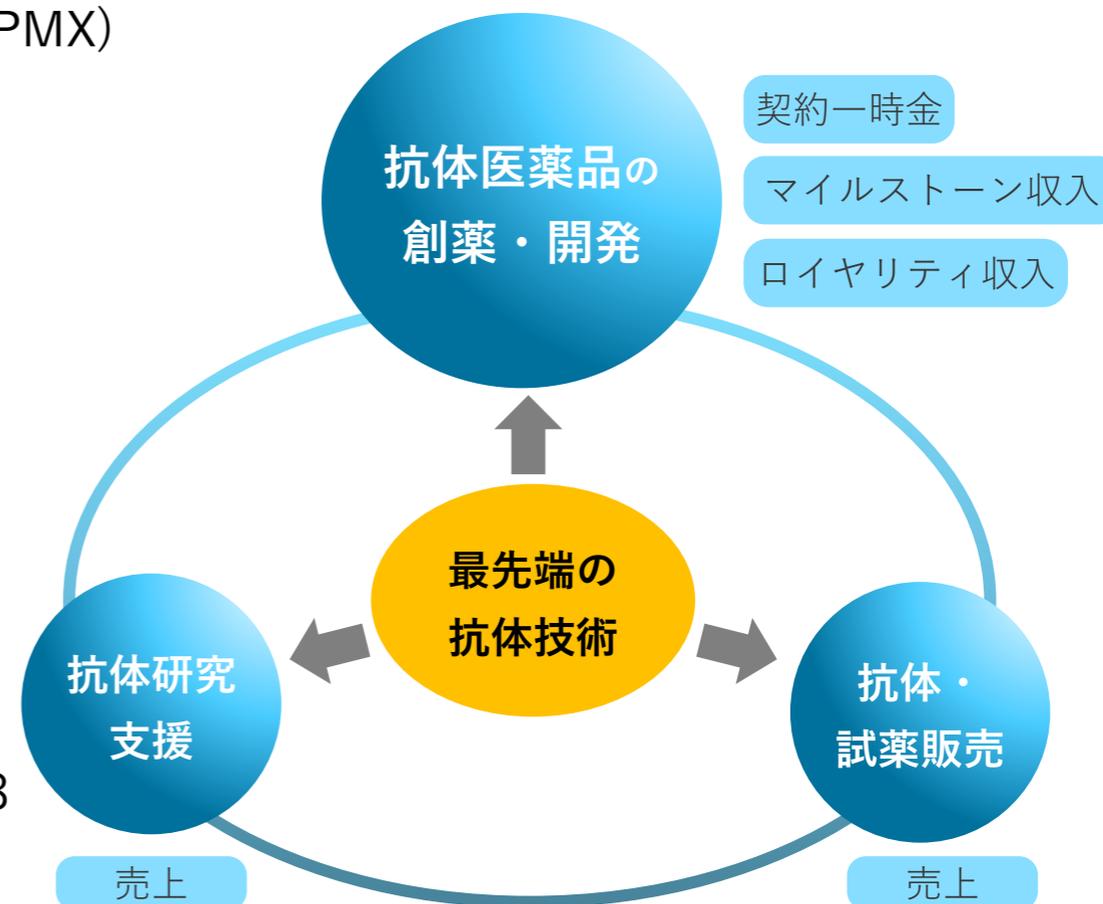
**証券コード** 4882

**拠点** 本社・ラボ：東京都中央区日本橋箱崎町30-1  
名古屋ラボ：愛知県名古屋市千種区千種2-22-8

**資本金** 2,437百万円\*

**従業員** 32名\*（臨時従業員は含まず）

\* 2025.3.31現在



## 02 2025年3月期の計画と実績

## 計 画

- 1 PPMX-T003 :  
真性多血症（PV）第I相試験終了、  
2025年3月期に導出
- 2 PPMX-T003 :  
アグレッシブNK細胞白血病（ANKL）の  
医師主導治験を2025年3月期に終了
- 3 PPMX-T002 :  
2025年3月期に導出
- 4 PPMX-T004 :  
予備毒性試験の実施、非GLP毒性試験の開始

## 実 績

- PV第I相試験終了（2024年6月）
- 導出に至らず。導出活動を継続
- 医師主導治験は2026年3月期まで  
1年延長
- AMED創薬支援事業に再び採択
- 導出に至らず。導出活動を継続
- 予備毒性試験で薬効と毒性の  
バランスの最適化検討中
- 非GLP毒性試験は2026年3月期  
以降に開始

# パイプラインの状況

当社コード	対象疾患	研究開発		治 験			承認	市場規模 (2024年予測)
		創薬研究	非臨床試験	P1	P2	P3		
PPMX-T003	PV	→			導出活動中			2,822億円*1
	ANKL	→			P1/2を実施中			—
PPMX-T002	固形がん (卵巣がん等)	RI抗体 (Y) →			導出活動中			7,982億円*2
		RI抗体 (Ac) →						
PPMX-T004	固形がん (卵巣がん等)	ADC →						7,982億円*2
		ADC →						

レート：USD1=JPY147

\*1 主要7市場の合計（日・米・欧州5か国）、出典:(株) グローバルインフォメーション 「真性多血症—市場考察、疫学、市場予測（2032年）」

\*2 出典：Evaluate Pharma Ovarian Cancer WW Market Value (2021年)、卵巣がんのみ

1

# PPMX-T003 : PV 第I相試験終了、導出活動を継続

<P1a(健常人) n=40>

<P1b(PV患者さん) n=6>



現在導出活動を継続中

できる限り早期の導出を目指す

1

# PPMX-T003 : PV

第66回ASH（米国血液学会）を含む国内外の学会で発表

FY2025/3のPPMX-T003学会発表

日本	2024年7月13～14日	第14回JSH International Symposium 2024
米国	2024年12月7～10日	第66回ASH年次総会 <b>世界最大の血液学会</b>

<PV患者さんの第I相試験結果を報告>

- 6例中5例で12週間の瀉血不要期間を達成
- 6例全てで重篤な副作用なし

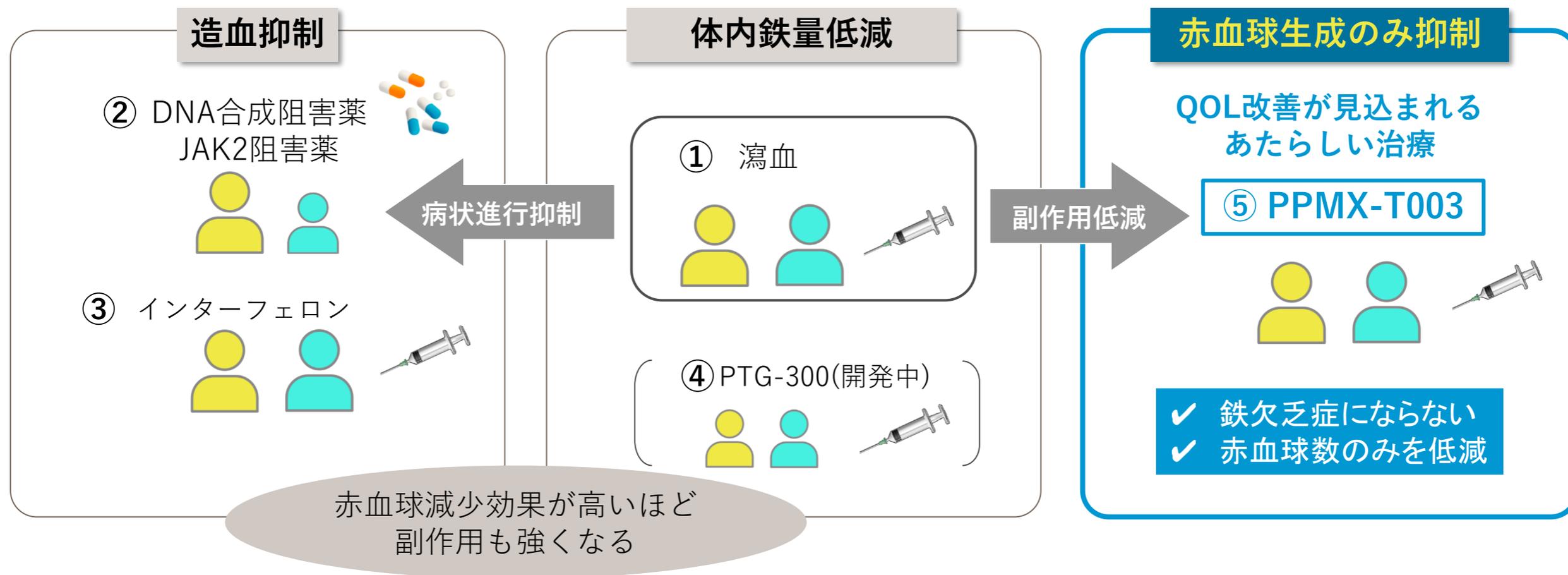
# PPMX-T003 : PV

## 既存競合薬に対するポジション・優位性

PVの特徴：赤血球増加⇒血液粘性上昇⇒血栓症

60歳以上or血栓既往有  
ハイリスク (一定の副作用は許容)

60歳未満、血栓既往無  
ローリスク



副作用 ←

×

△ (QOL低下)

○ →

# 1 PPMX-T003

## 市場性：PV治療薬の導出事例

事例	導出* <sup>2</sup> (2023年1月)	導出* <sup>3</sup> (2024年1月)	導出* <sup>4</sup> (2025年3月)
開発品名	MWTX-003/DISC-3405	PTG-300	Sapablursen
開発企業	Mabwell Therapeutics (中)	Protagonist Therapeutics(米)	Ionis Pharmaceuticals(米)
導入側	Disc Medicine (米)	武田薬品工業	小野薬品工業
対象疾患	PV、βサラセミア	PV	PV
開発段階	P1	P3	P2
契約金* <sup>1</sup> (億円)	<p>+2桁%ロイヤリティ</p> <p>606 15 621</p>	<p>+開発・商用マイルストーン +ロイヤリティ</p> <p>441</p>	<p>+2桁%ロイヤリティ</p> <p>970 412 1,382</p>

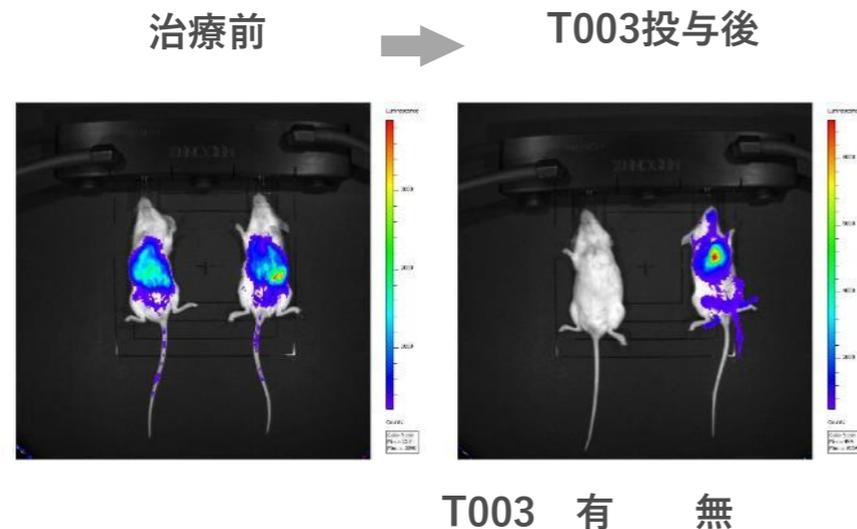
■ 契約一時金 ■ 開発（・商用）マイルストーン

\*1 レート： USD1=JPY147  
 \*2 Disc Medicine社 2023年1月20日付 “Disc Medicine Announces Exclusive Licensing Agreement with Mabwell Therapeutics for Novel Anti-TMPRSS6 Monoclonal Antibodies to Modulate Iron Homeostasis” \*3 武田薬品工業社 2024年1月31日付 “Takeda and Protagonist Therapeutics, Inc. Enter into Worldwide License and Collaboration Agreement for Rusfertide, a Late-Stage Rare Hematology Asset” \*4 小野薬品社 2025年3月12日付 「米国Ionis Pharmaceuticals社と 真性多血症治療薬「Sapablursen」に関するライセンス契約を締結」

## 超希少疾患ANKLとは

- 平均生存期間 = 58日（約2か月）
- 超希少疾患 2020年 国内発症13例
- AYA世代（15~39歳）、40代に多い
- 有効な治療薬が存在しない

## PPMX-T003の効果を実験で確認



AMEDの創薬事業に採択  
助成金 計2.75億円  
(3年間：FY2023/3~FY2025/3)

医師主導治験  
開始

2

# PPMX-T003 : ANKL

## 医師主導治験(n=7) 2026年3月まで延長 : AMED事業に再び採択

2023/03

2026/03まで延長

医師主導 第I/II相試験(広島大学)

2025年2月  
AMEDの創薬事業に**再び**採択  
FY2026/3助成金 1億円  
(事業期間は3年間)

治験費用に充当

治験実施施設を増設  
7カ所⇒9カ所

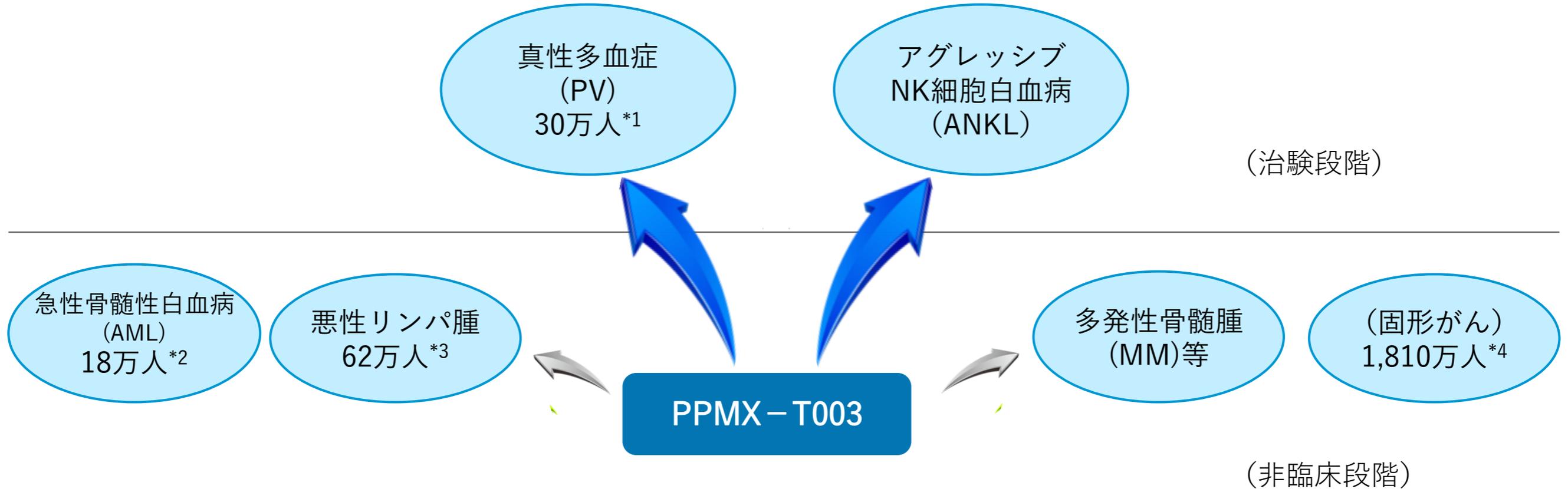
さらに広く全国をカバー



世界初のANKL治療薬として  
製造承認申請へ  
オーファン申請

# PPMX-T003 :

対象疾患：真性多血症やANKLほか各種血液がんへの適応



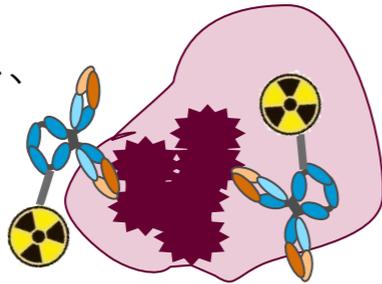
**AML、悪性リンパ腫等の治療薬として適応拡大が期待**

出典： \*1 グローバルインフォメーション「真性多血症 - 市場考察、疫学、市場予測（2032年）」主要7市場の合計（日・米・欧州5か国）  
 \*2 WHO, “Blood Reviews” Volume 36, Epidemiology of acute myeloid leukemia: Recent progress and enduring challenges”を基に当社で推定  
 \*3 WHO \*4: World Cancer Research Fund International (2020)

# 3 PPMX-T002：放射性同位体（RI）標識抗体 抗体はそのまま活用し、より効果が高い<sup>225</sup>Acに変更 導出活動を継続

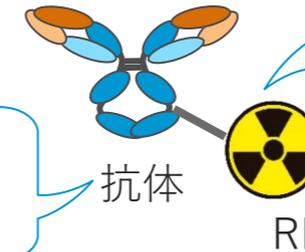
## 1 RI標識抗体の働き がん細胞

CDH3に抗体が集積し、  
RIががん細胞を殺傷



## 2 PPMX-T002の構成

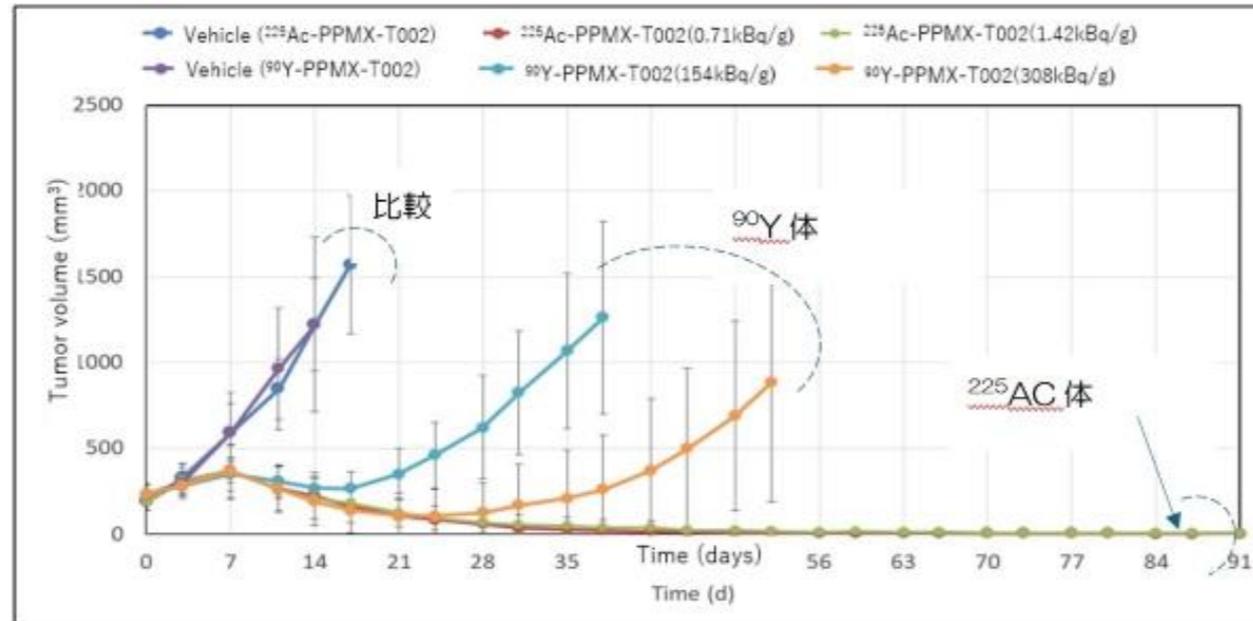
がんへの集積を確認済  
(米国でのP2治験実績)



$^{90}\text{Y}$  ( $\beta$ 線)  $\Rightarrow$   $^{225}\text{Ac}$  ( $\alpha$ 線)に  
置き換えて治療効果を向上

## 3 マウスでの実験結果

↑  
腫瘍の大きさ



**<sup>225</sup>Acで  
がんが消失**

薬剤投与後の日数 →

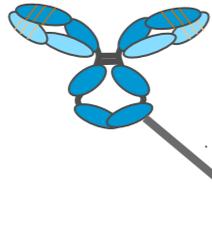
4

# PPMX-T004：抗体薬物複合体(ADC) 予備毒性試験実施中、非GLP毒性試験は来期以降開始

## 1 開発計画



抗体

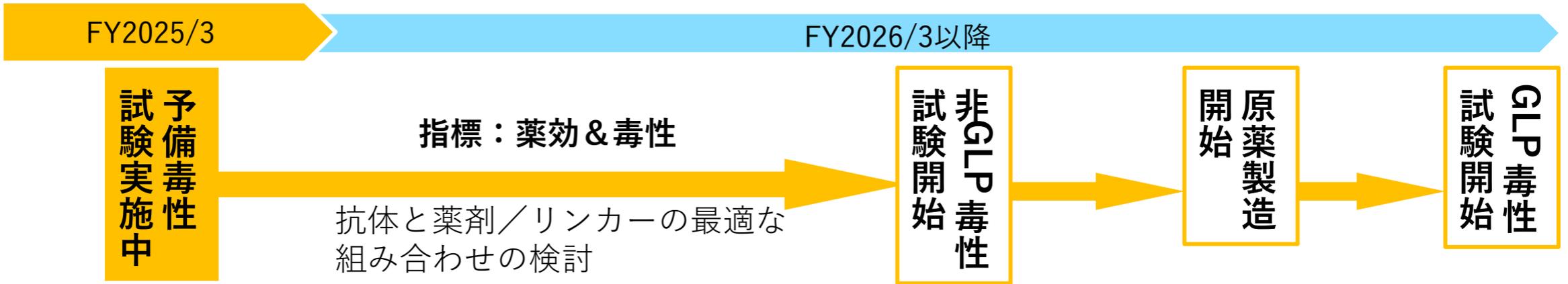


リンカー

低分子抗がん剤

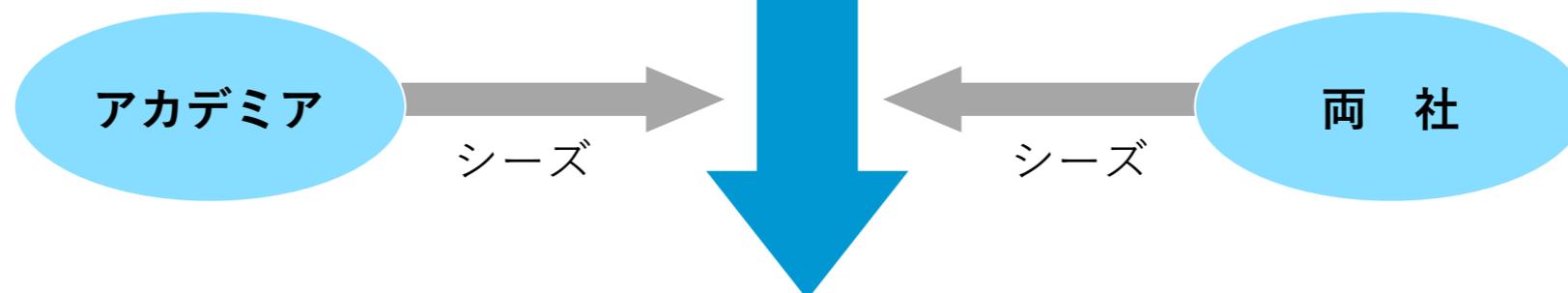
- 血中での高い安定性
- 狙ったタイミングで切れて低分子抗がん剤を放出
- 抗体と相性の良い低分子抗がん剤

## 2 今期の活動内容と今後の計画

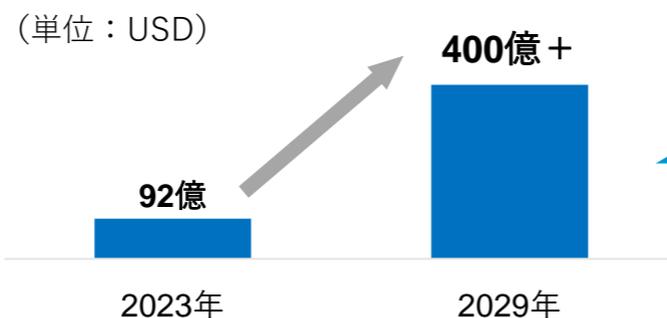


# 03 トピックス

# UBE社とのADCに関する共同研究契約締結



**様々ながんに対するADCを共同で研究開発**



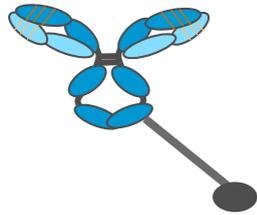
世界のADC市場は2029年までに4倍以上に成長との予測も

(グローバルデータ社：2024年3月『抗体薬物複合体 (ADC)：市場概要』)

# 抗体・試薬販売と抗体研究支援事業 創薬技術を活かした新製品・新サービス導入で収益向上を目指す

## 抗体・試薬販売

### ADC研究用抗体、疾患研究用抗体を発売



#### ● ADC研究用

New

**抗MMAE抗体**  
(2024年11月)

New

**抗Exatecan抗体**  
(2025年4月)

#### ● RIT研究用

抗DOTA抗体

#### ● 疾患研究用

New

**抗GPCR抗体**  
(2025年4月)

抗mAQP4抗体

## 抗体研究支援

### VHH抗体スクリーニング・作製サービスは2025年5月に提供開始

組換抗体生産

配列解析

組換抗体作製

#### シングルセル・クローニング技術

- シングルセル遺伝子解析
- 希少細胞の回収
- 遺伝子導入後の細胞クローニング

#### VHH抗体スクリーニング技術

New

- **抗体スクリーニング・作製**(2025年5月)

# 04 2025年3月期決算概況

## ● 損益計算書

(単位：百万円)

	FY2024/3 実績	FY2025/3 実績	
売上高	100	120	抗体研究支援 抗体・試薬販売
売上総利益	87	104	
販売管理費	982	930	
研究開発費	616	594	PPMX-T003 ANKL治験 PPMX-T003 PV治験
その他	366	335	
営業利益	△894	△826	
経常利益	△879	△829	
特別損失	223	72	設備投資の減損損失
法人税等	1	2	
純利益	△1,104	△904	

- 売上高： 前年同期比約20%増（抗体・試薬販売、抗体研究支援ともに増加）
- 研究開発費： PPMX-T003のANKL第I/II相医師主導試験費用、PV患者さん第I相試験費用等  
PPMX-T004は抗体と薬物/リンカーの組み合わせの最適化に遅れ

## ● 貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部		
	2024/3/31	2025/3/31
現金及び預金	1,541	1,667
流動資産合計	1,650	1,775
固定資産	42	42
資産合計	1,693	1,818

負債の部		
	2024/3/31	2025/3/31
流動負債	128	124
固定負債	166	261
負債合計	295	386
純資産合計	1,398	1,432
負債純資産合計	1,693	1,818

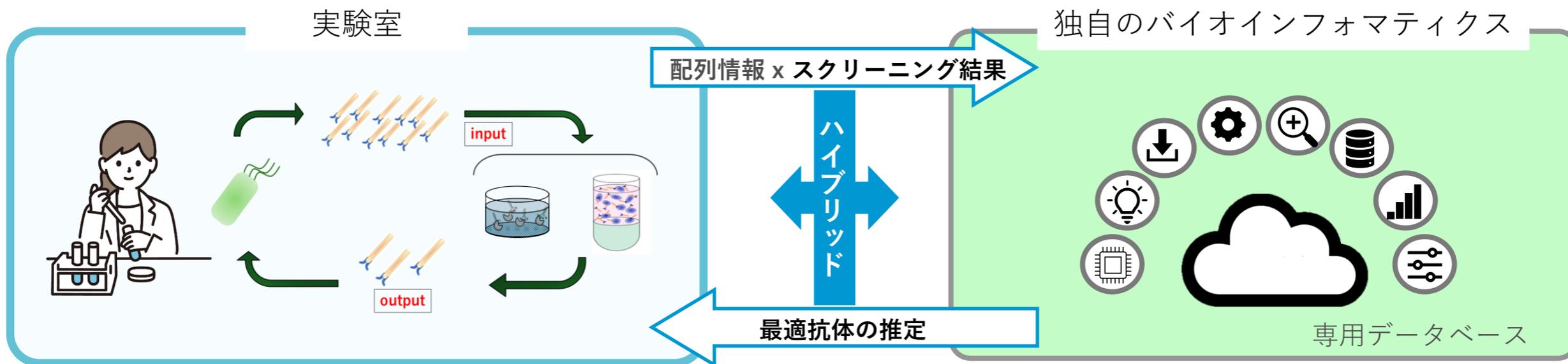
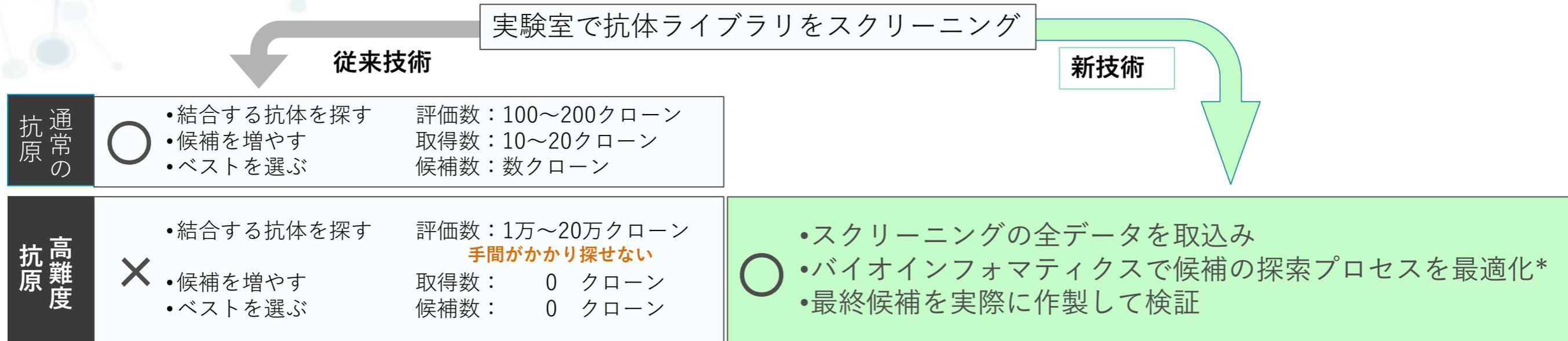
- 現預金：資金調達による増加
- 固定負債：PPMX-T003（ANKL治療薬開発）のAMED創薬事業採択による長期預り金
- 自己資本比率：74.3%

## 第28回新株予約権による資金調達

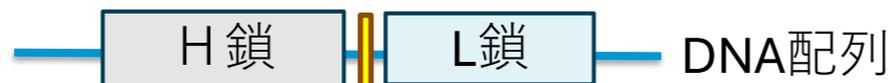
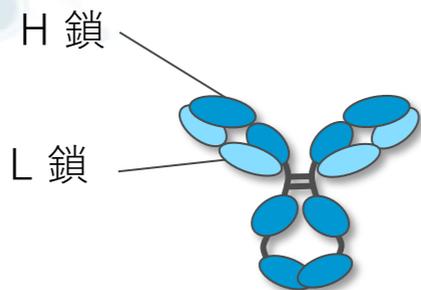
第28回新株予約権	
割当日	2024年3月7日
割当先	パークレイズ・バンク
潜在株式数	2,900,000株（2023年12月31日時点の発行済株式総数に対し24.51%）
発行価額	総額1,566,000円（新株予約権1個あたり54円）
調達額（手取）	約9.5億円
行使期間	2024年3月8日～7月1日（完了）
当初行使価額	536円
行使価額の修正	行使請求の効力発生日の直前取引日東証終値の93.5%に相当する金額に修正
下限行使価額	268円（発行決議日直前取引日（2月19日）の東証終値の50%に相当する金額）

# 05 当社の目指す姿と取り組み

# 今後の標的は難病などの高難度抗原。いかに早く抗体を見つけるかが勝負



高難度抗原：リアルな実験とバイオインフォマティクスとのハイブリッドで対応



L鎖配列に対応したバーコード配列 (ID-Tag) を H鎖とL鎖の間に挿入

## PPMX抗体ライブラリ2 (新)

New

他社の100倍の多様性 ▶ PPMX抗体ライブラリ1と同じコンセプトで深化

ライブラリのID化 ▶ 簡便に抗体の全配列情報を解析

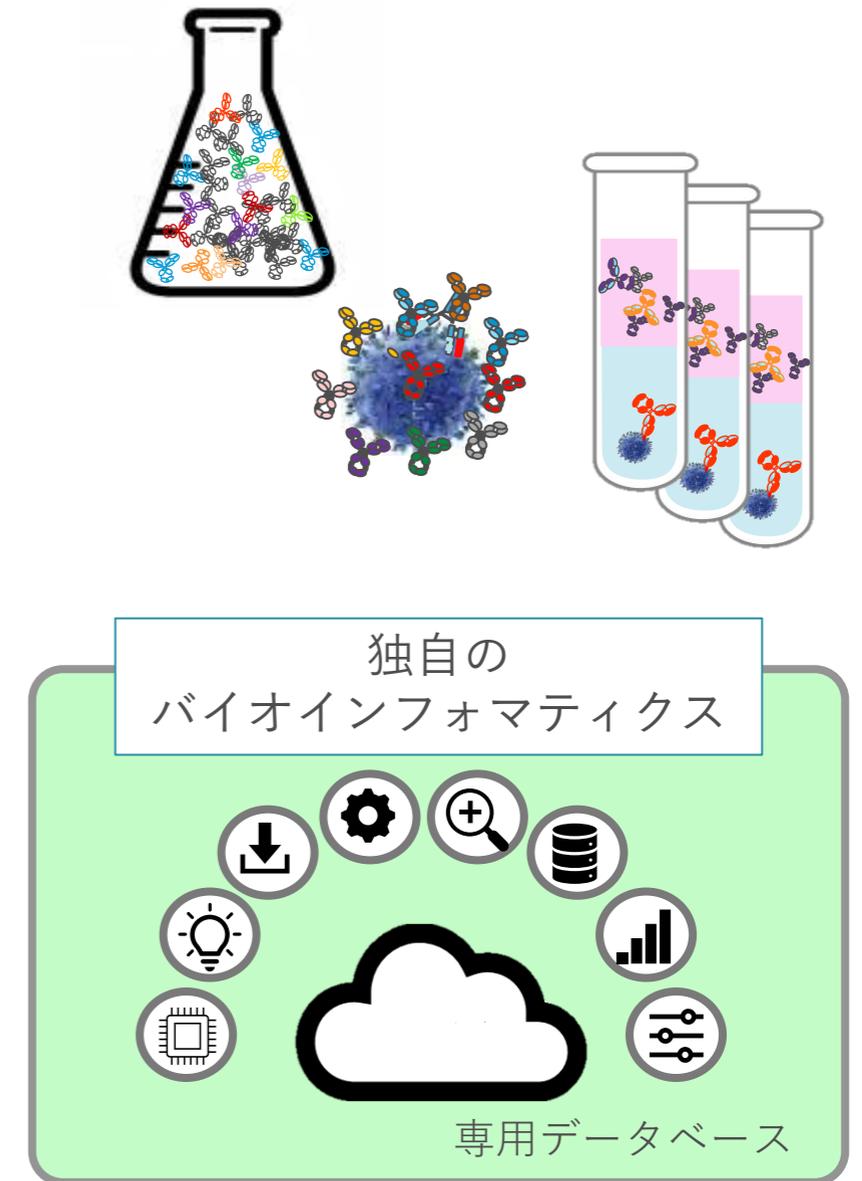
New

スクリーニング手法のハイブリッド化 ▶ スクリーニングの効率化  
希少クローンの可視化

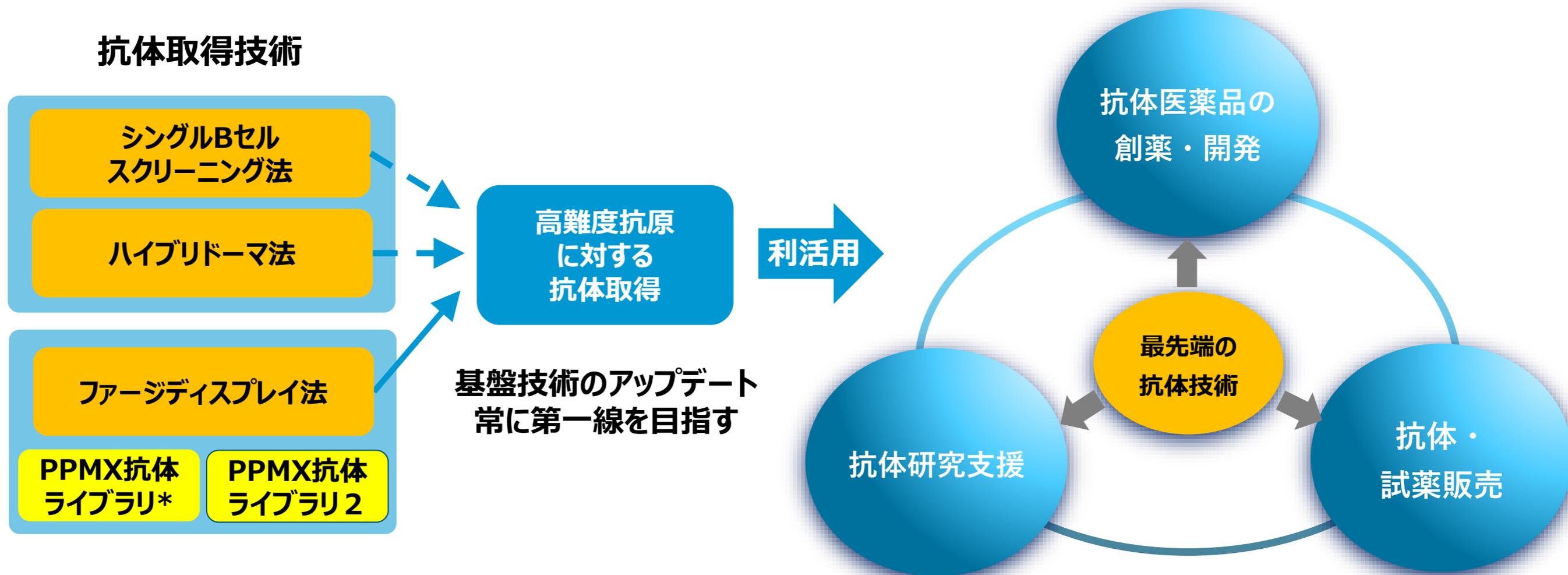
抗体ライブラリの進化で活用範囲を拡張 将来的なAI抗体創薬への布石

# 高難度抗原に対する抗体取得の技術フレーム

- 1 多様性の高い独自のライブラリ2 (ID化)
- 2 ICOS法により非特異的に吸着する不純物を除去  
(化学的にノイズを除去)
- 3 1 を活用して全ての実験結果の抗体配列を解析  
(デジタル的にノイズを除去)
- 4 PPMX独自のデータベースに蓄積
- 5 独自のAIにより、求める抗体候補の配列を推定



# 当社の「コア・コンピタンス」= 最先端の抗体取得技術により、 各事業を多面的に支援・強化



\* : これまでPPMXが利活用してきた複数のライブラリの総称

# 決算説明会 Q & A

ご質問は「Q&A」からお寄せください。



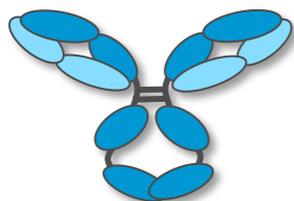
当社HPにて「**ペルセウス通信**」を発信しております。  
ぜひご覧ください。

- 各IRの補足説明
- 当社に関するトピックス など



<https://www.ppmx.com/newsletter/>

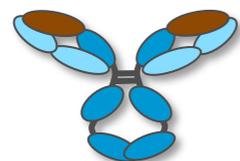
# Appendix



抗体

- 体の中で異物を排除
- 体に元からある免疫システム
- 特定の抗原（標的）だけに作用

⇒ 副作用の少ない理想的な分子標的薬



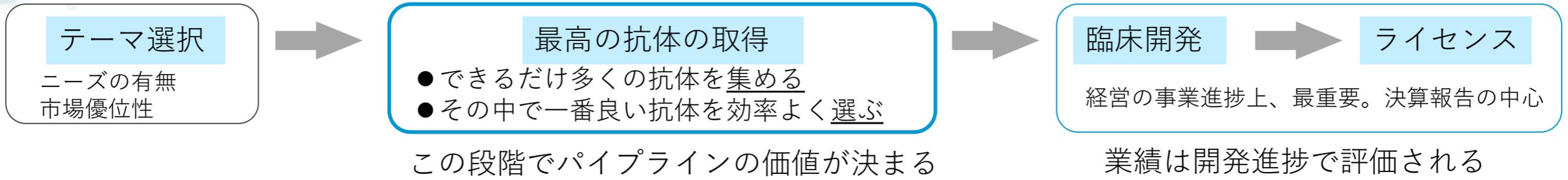
抗体A



## 抗体医薬品

病気部位のみに作用するよう  
設計した抗体からなる治療薬

# 抗体創薬の競争の焦点 技術的優位性を活かし、抗体ベンチャーのトップへ



抗体の集め方（3つの基本的な抗体取得方法を網羅し、常に進化させる）

①回復患者

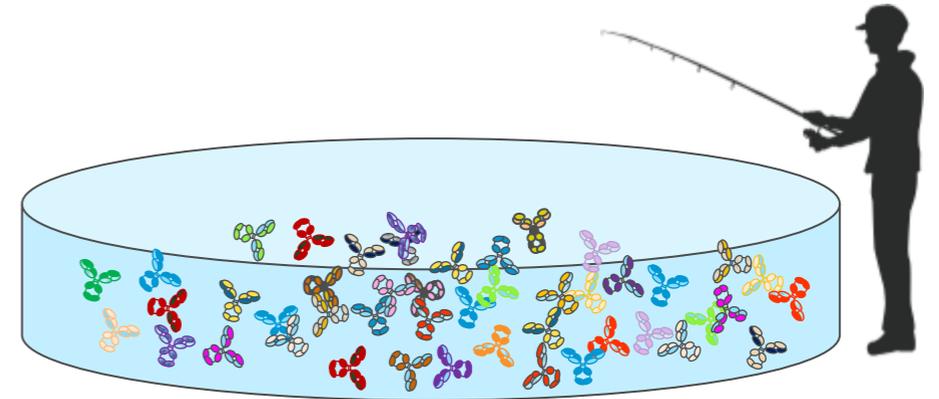
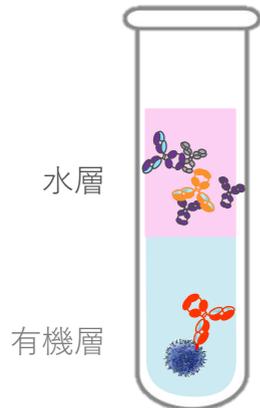
②マウス免疫

③ファージライブラリ

選び方

細胞を使うICOS法、  
一本釣り vs. 漁網で獲ってから選ぶか選択

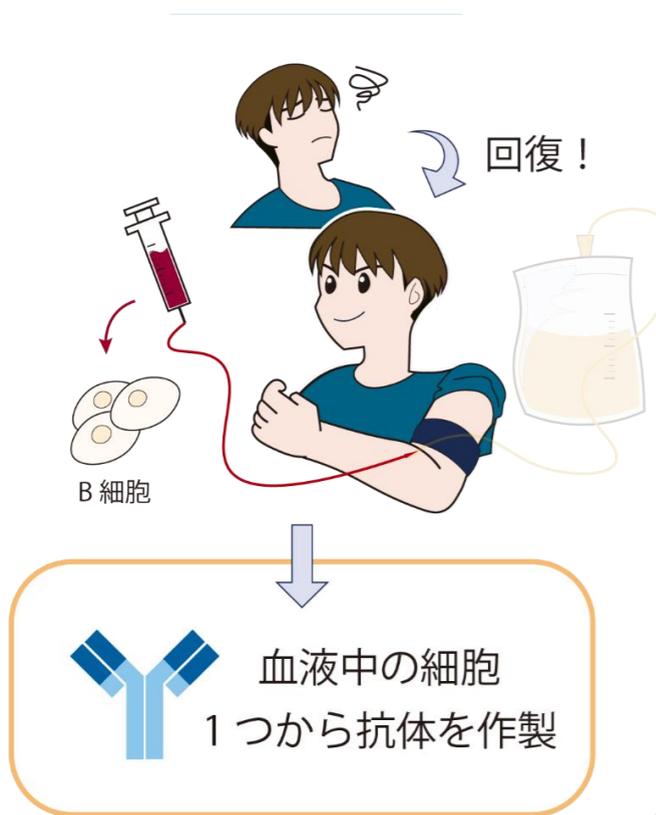
標的への結合力だけでなく、結合後の抗体の機能で選ぶ  
(細胞の中に入る、受容体に結合して競合阻害する等)



# 抗体医薬の創成方法を網羅し、最先端技術を追求

## 1 回復患者

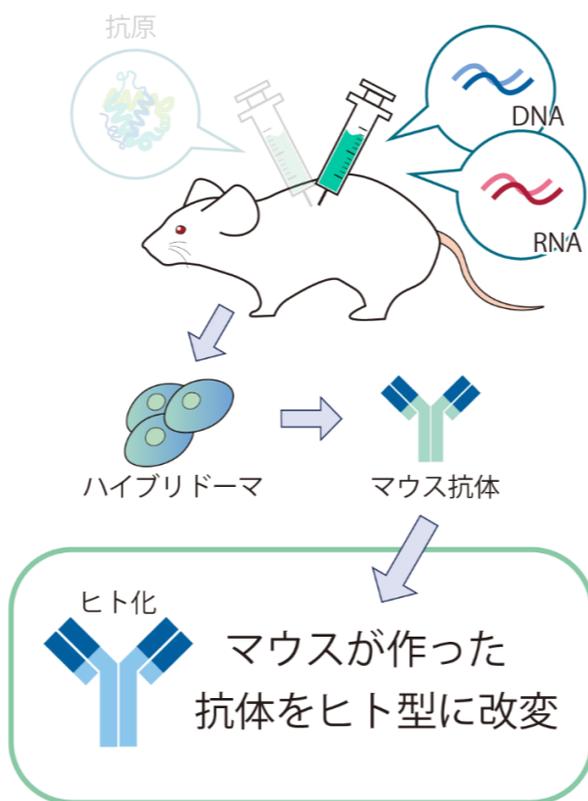
病気の本質と治療薬のヒント



シングルセル・クローニング  
技術サービス

## 2 動物免疫

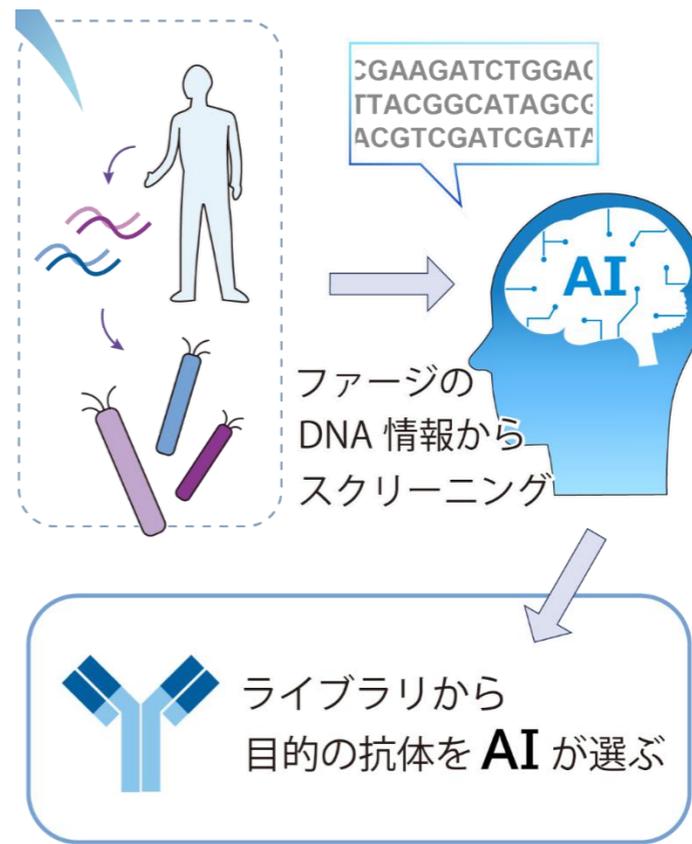
遺伝子操作創薬に必須



遺伝子導入後の細胞  
クローニング技術サービス

## 3 ファージディスプレイ法

NGS解析の配列情報とwet  
実験データを組み合わせ



当社の膨大な抗体と  
そのwetデータをAIに活用



【お問合せ:】

Email: [ir@ppmx.com](mailto:ir@ppmx.com)

TEL: 03-6264-8224

FAX: 03-3668-7776

<https://www.ppmx.com>

本資料は、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料には、将来についての予想や見通しが含まれております。これらは現在当社で入手可能な情報に基づいて作成しており、経済や医薬品業界の動向などにより、変動することをご了承ください。